

2020年度の年間の活動

1. 活動方針

本街区では、まちづくりコンセプトにて「自然環境との調和の取り組み」によるまちづくり、「景観・低炭素への取り組み」、「地球温暖化防止」低炭素への各戸での取り組みなどが掲げられており、これまで以下のような取り組みが行われてきた。

- ①年2回の区会「クリーンデー」の実施
- ②区会行事の実施
- ③役員全員によるまちあるき（景観巡視）の実施
- ④大学・研究機関等との連携（実証実験等）
- ⑤区会誌とハンドブックの発行

2. 具体的な活動内容

今年度はコロナ禍のため、自治体等による集会等の自粛依頼の周知もあり、これまで実施してきたクリーンデー（①）などのコミュニティ行事を実施することが困難となった。そのようななか夏祭り等（②）ができない代替として、2020年8月23日に「新たな生活様式」の催事として、オンラインフォーラムを開催した。

この催事は、身近な近隣コミュニティの運営手法・スキル等について、先導モデル街区を例に、住民が主体的に取り組む具体的なまちづくりの実践（景観を守り育てる活動やエネルギーモニタリングの現状と課題）などを学ぶことを目的に、「サステナブル・コミュニティ・フォーラム 2020 持続可能なまちをつくるために私たちにできること～北九州とつくばの先導モデルタウンの実践に学ぶ～」と題し、開催したものである。街区間で情報交換・交流が始まっていた北九州市城野地区の関係者・住民らにもオンラインにて合流いただき、先導モデル街区の事例紹介によりお互いの実践内容を知り、共有する機会にもなった。この企画の当初動機は、本街区がフィールド提供し学識者により実施されたエネルギーモニタリングの研究（④）に関するフィードバックの場を設けることにあった。しかし、複合的な目的をもつ催事としたことで、昨今のコロナ禍により事例視察を行うことは難しいなかであっても、他の街区との交流機会も得ることができた。これはつまり、当初維持管理活動支援費活用にて計画していた他事例見学の代替ともなった。オンラインならば遠隔・複数人・同時の情報交換が可能となり、外部との比較や評価により地区のことを顧みることもでき、新たな交流手法の経験の機会という意味では「禍を転じて福と為った」試行でもある。このオンライン催事の内容は、コミュニティ誌「スマエコ通信 12号」にて本街区全住民に内容のフィードバックを行った。

（⑤）

なお、役員会については、対面形式での会議の数を減らし、グループウェアやビデオ会議によるオンラインの活用による活動の比重が増えているが、景観巡視なども適宜行

うこととしている。(③)

受賞を契機に新たに取り組んでいること

1. 本街区のコンセプト継承に向けたコミュニティ啓発の強化

1) 創・蓄・省エネルギー関連の設備更改等の時期を見据えた調査検討

本街区は、入居が開始され、かつ団地管理組合法人等が設立されてから7年目を迎えているが、およそ2年半後から、太陽光発電固定価格買取制度での売電開始から10年、その他設備更改(蓄電池ほか)等の時期を迎えはじめることとなる。そのため、向こう2年間のうちにエネルギーモニタリング調査からの知見を参考に、低炭素化に適した判断に役立つ情報を揃えておくことが望ましいと考えられる。そこで、学識者や分譲元ハウスメーカー等にヒアリング等調査を行い、その結果を基にコミュニティペーパーなどの媒体を活用して、どのような選択肢をとるのかについて、住民向けに参考となる情報展開が可能か検討を進める。

なお、前述2020年8月に実施したオンラインイベントおよびその住民フィードバックは、この参考知見にふれる一環に位置づけられる。

2) 景観協定運営の理解浸透とまちなみ維持保全への啓発活動の連動

本街区は約7年後に景観協定が設定されてから15年が経過することから、この協定の継続・変更・廃止を判断することになる。理解浸透を図ることや先行事例などを踏まえた検討は用意しておくことが重要となる。本維持管理活動支援費活用の2年目には、本街区のコミュニティや景観協定の運営をヴィジュアルに理解できるよう用意している「スマ・エコシティつくば研究学園ハンドブック」を改訂(多言語化翻訳等含む)のうえ配布するなど理解浸透・啓発の活動を進め、3年目には、景観協定による維持管理の現状や効果と課題などについて先行事例調査などから参考知見を得て、コミュニティペーパーなどの媒体を活用し、住民向けの情報共有を行うこととしたい。

3) コミュニティサイトの使いやすさ向上

管理組合が住民向けに設けているコミュニティサイトについて、操作性や管理おけるデータ管理の観点で、改善する必要があるという団地管理組合法人理事会の意向があり、この改修を行う。

4) 負担の少ないコミュニティ運営の在り方の検討

役員会の業務として、住民への啓発活動など、コミュニティ醸成に資する要素を損うことなく可能な省力が図れることなどは積極的に取り入れていく必要がある。この住まいのまちなみコンクール受賞による維持管理活動支援費の用途の一環と

して、コミュニティペーパーなどの媒体の引継ぎやすいフォーマットづくりの検討を行うことや多様な国籍の住民が入居した際にコミュニティールを受容いただきやすいように、2)で触れたハンドブック多言語化翻訳等に取り組むこととした。

維持管理活動支援費の使途

コミュニティ啓発イベントの準備費・当日運営費の一部、成果の住民フィードバック資料印刷費、制作委託費、コミュニティサイト改修費などへの活用とした。

- 第1回啓発イベント（映画「人生フルーツ」上映会費用）
- 第2回啓発イベント・サステイナブルコミュニティフォーラム（告知フライヤー、コミュニティ誌「スマエコ通信12号」での成果フィードバック〈印刷費、制作委託費〉）
- コミュニティサイト改修委託費
- コミュニティ誌「スマエコ通信13号」〈印刷費、制作委託費〉



プログラム

13:30 挨拶・趣旨説明
13:40 事例紹介①
北九州城野地区の取り組み
14:10 事例紹介②
つくばの取り組み
14:40 質疑応答
15:00 終了

日時:2020年8月23日
13:30~15:00

参加無料
オンライン開催
申込: 右QRコードからお申込ください
申込受付は、QRコード先のPeatixにより行います。登録を行った方にミーティングURL情報が共有されます。

私たちが住むまち(北九州市城野地区とつくば市研究学園)は、21世紀に入ってから開発された新興住宅からなる地区です。今回事例紹介を行う2つの地区は、環境未来都市/環境モデル都市に選定された都市に立地していることから、開発事業者により、**環境配慮などの現代的課題への対応**がテーマとして与えられ開発が進められました。そして、まちの運営は「開発事業者=まちの生みの親」から「居住者=まちの育ての親」に引き継がれ、住民の主導により、コミュニティ行事や景観保全などの活動の成長がみられます。また、両地区ともエネルギーモニタリングなどの社会実験も行われています。

まちは初期から徐々に次の段階に進んでいますが、今後も**住民主導によって持続可能なまちを育てていくため**、身近な近隣コミュニティの運営手法等について、**先導モデル街区同士の実践事例の共有**により、本フォーラム参加の皆さんと共に学んでいきたいと思ひます。

主催:スマ・エコシティつくば研究学園区会/一般社団法人城野ひとまちネット
共催:研究学園4丁目区会連絡会、研究学園エリア区会連絡会事務局 後援:北九州市

話題提供者紹介

<北九州・城野地区>

牛房義明
北九州市立大学経済学部教授 博士(経済学) 専門は環境経済学、公共経済学、エネルギー経済学。「スマートコミュニティにおける住宅の節電省エネ型ライフスタイルデザインの実証研究」など現在取り組む課題としている。城野地区住民でもあり、現在、城野ひとまちネット代表理事、ボンジョーノ町内会長に就いている。

太田信知
一般社団法人城野ひとまちネット統括タウンマネージャー。本職はお坊さん。前職では、鳥根県福岡県都市町で地域おこし協力隊として高校の寮改革に取り組み。主に学校では学べないような事を地域から学び、学んだ事を実践して地域に還元する活動を行った。城野地区でも、新たに北九州市立大学と連携し、還元活動を行っている。

<つくば・研究学園>

磐田朋子
芝浦工業大学システム理工学部准教授博士(環境学)。専門はエネルギー学、システム工学。住宅および建築物のエネルギー需要制御システム、分散型再生可能エネルギーの活用システムなどを研究課題としており、その一環としてスマ・エコシティつくば研究学園のエネルギーモニタリング調査を担当した。

仲村 健
スマ・エコシティつくば研究学園 区会元区長(第2期~第5期:初期期のコミュニティ形成に尽力)、研究学園4丁目区会連絡会会長、学園の森義務教育学校PTA本部副代表など地域コミュニティ活動に関わる。現在、筑波大学大学院博士後期課程(社会工学位プログラム)在学中。前々職、前職などでは開発企画・まちづくりに関する業務に従事してきた。

事例紹介対象地紹介

みんなの未来区ボンジョーノ(北九州市城野地区)
JR小倉駅の南約3km、JR城野駅の北側徒歩1分に位置し、「環境未来都市北九州市」の主要プロジェクトであり北九州市都市計画事業城野地区北土地画整理事業(事業面積:約18.9ha)として整備された街区。本事業では、さまざまな低炭素技術や方策を統合的に取り入れることにより、ゼロカーボンを目指す先進的住宅街区「ゼロカーボン先導街区」の形成に資することを目的としています。現在は約510戸が入居し、最終的には、全体で約850戸の街区になる予定。

スマ・エコシティつくば研究学園(つくば市研究学園・葛城地区)
つくばエクスプレス研究学園駅の北西約1.5km(徒歩5分)に位置し、「環境未来都市・つくば」において「コミュニティ型低炭素モデル街区」に位置づけられ、先導モデル街区として整備された。2013年12月まじらさ、2014年4月に住民がまちの共用施設を維持管理・運営する団地管理組合法人や、コミュニティイベント等を行う区会、まちなみや住環境の保全活動を行う景観協賛委員会を組織し、一体となって活動し、コミュニティ活動としては7期目に入っている。その活動については国土交通省まちづくり月間行事の一環である「第15回 住まいのまちなみコンクール」(主催:まちづくり月間全国行事実行委員会)において「住まいのまちなみ賞」受賞するなど外部からも評価を得ている。

近い将来取り組まなければならない課題

受賞を契機に新たに取り組んでいる活動の項でもふれた、「創・蓄・省エネルギー関連の設備更改等の時期を見据えた調査検討」、
「景観協定運営の理解浸透とまちなみ維持保全への啓発活動の連動」などについては、本街区居住者やコミュニティ組織にとって将来的に判断が求められる事項があり、その対応に備える観点から近く取り組んでいかななくてはならない課題である。

1. 地域の区会連絡組織との関係性の検討

つくばエクスプレス開通から 15 年以上経過し、周辺地域の交流は見られるもののコミュニティ形成途上の状況にあり地域課題は様々なものがある。ハードの面では、2018 年に近隣に義務教育学校が開校したものの、子育て世代の転入増加が続いてきたことから 2024 年春にはまた新設の小中学校が開校となる予定であり、住宅・商業施設等の整備が進む一方、近隣各所で発生している慢性的な渋滞への改善や、通学路の安全確保などに対する住民の声も高まっている。ソフトの面では、区会といった地縁コミュニティも 23 の区会設立がなされてきた。発足から 10 年以上経過するものから設立間もないものまで存在する状況にある。ただ、これまで区会相互の横のつながりは希薄であり、安心・安全なまちづくりの実現へ向けて、区会同士が連携・協力してまちの課題へ対応するという場は少なかった。2021 年 1 月には、「(仮称)研究学園エリア区会連絡協議準備会」が設立され、この地域の今後の区会連携組織のあり方(本組織化)への協議が開始された。あるべき組織体像の方向性について研究学園エリア区会の合意形成を諮っていくこととなり、この会議体に区長等が参加し、関係性を検討していくこととなる。